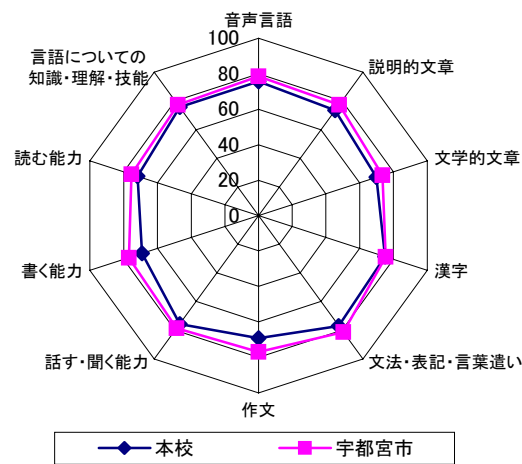


宇都宮市立国本中学校第2学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	75.7	78.5
	説明的文章	73.5	77.2
	文学的文章	69.8	73.4
	漢字	74.8	75.3
	文法・表記・言葉遣い	77.0	81.1
	作文	69.1	76.9
観点別	話す・聞く能力	75.7	78.5
	書く能力	69.1	76.9
	読む能力	71.6	75.3
	言語についての知識・理解・技能	75.6	77.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (75.7%)	・平均正答率は市全体の平均と比べると2.8パーセント低い。話しの趣旨の聞き取りは市の平均を上回り、中心部分と付加の部分の聞き分けとインタビューの工夫の聞き取りにおいてはほぼ同等の値を示していた。しかし、事実と意見の聞き分けにおいては、市の平均を8パーセント大きく下回っている。	・聞き取りテストの活用回数を増やし、様々な内容(説明・論説文、物語、意見文、討論など)の要旨を短時間でつかむ練習を行い、音声に慣れさせながら定着を図っていきたい。
説明的文章 (73.5%)	・平均正答率は市全体の平均と比べると3.7パーセント低い。意見の記述や文章の構成や展開の項目においては、市の平均をわずかに下回る値であったが、文脈に即した内容の理解に関しては、市の平均より4.9パーセント低かった。	・説明文特有の文章構成や指示語・接続詞の使い方などを身に付けてより正確に説明文の読解が図れるよう、スキル学習に重点を置き、論の展開を捉えさせていけるよう指導する。
文学的文章 (69.8%)	・平均正答率は市全体の平均と比べると3.6パーセント低い。登場人物の心情の正答率は市の平均を上回ったが、登場人物の様子や会話の補充・意見の記述の内容においては正答率が低かった。	・小説(物語)は比較的生徒に馴染みやすいことから、今後も「読書に親しむ態度」を喚起しつつ、自分の感じ方を大切にして「作品と対話」する心の働きの重要さを意識付けて臨ませたい。登場人物の心情や様子においても、互いの感じ方の共通点や相違点を知る・伝える活動を取り入れ、さらにものの見方・考え方を広げる学習活動を設定していく。
漢字 (74.8%)	・平均正答率は市全体の平均とほぼ同等であり、読み・書きの定着が図れている。ただし中学校1年の漢字の書き取りに関する項目においては市の平均を16.9パーセント下回り正答率が最も低かった。	・定期的に単元ごとの漢字プリントの学習や漢字小テストを行っていきながら、定着させるようにする。また、1年生で既習の漢字もプリント学習で復習するようにする。
文法・表記・言葉遣い (77.0%)	・平均正答率は市全体の平均と比べると4.1パーセント低い。活用形や類義語における正答率は市の平均と変わらない値であったが、方言と共通語の定着率がやや下回った。	・口語、文語の両面において、ワークシートなどの文法問題を数多く解き、解説を繰り返しながら基礎を定着させるようにする。
作文 (69.1%)	・平均正答率は市全体の平均と比べ、7.8パーセント下回り、他の領域より最も低かった。意見の記述や故事成語の意味の理解の定着率が低いとみられる。	・作文教材以外にも、授業の中で折に触れ、短作文や感想文・意見文などを書く機会を増やし、「書くこと」の習慣化が図れるように位置づけていく。また、作文の基本的な表記事項や構成などを徹底して指導していく。